

術式名 PHACO+IOL

手術に必要な物品

CCC (continuous curvilinear capsulorrhexis)

連続円形切囊で使用する器械

稲村氏 カプシュロレクシス鑷子 (稲村カプセル鑷子)
池田氏マイクロカプスロレクシス鑷子 (池田式カプセル鑷子)
25G 注射針+シリンジ
27G 注射針+シリンジ

コンステレーション®ビジョンシステムのトレイに載せる器具

ジアテルミーコード
PHACO のパック [0.9mm Tipless Phaco パック]
U/S ハンドピース
I/A ハンドピース
コネクティングチューブ
眼科用ドレープ
滅菌ガウン
手術手袋 (術者が洗顔する場合は2着)
顕微鏡キャップ

麻酔の種類・特徴

テノン嚢下麻酔 2%リドカイン (キシロカイン)
5ml ガラスシリンジ+テノン針
5ml ガラスシリンジ+27G 注射針
点眼麻酔
点眼用 4%リドカイン (キシロカイン) を適量

手術に必要な薬剤

術前に出すもの

・皮膚消毒

グルコジン (大綿球)、ポピヨード (小綿球)

・結膜嚢の消毒

器械出しは生食 100ml をメジャーカップに出す。
外回りは禁忌の有無を確認後、配盤上のカップに
洗眼用消毒液を出す

① PA ヨード (洗眼用)

生食 100ml + PA ヨード 8ml

② ※アルコール禁忌症例時

イソジン生食生食 100ml + イソジン 6ml

③ ヨード禁忌症例時

塩化ベンザルコニウム 0.025% 100ml

- ・生食 (水かけ用)
- ・ヒアルロン酸 Na

配盤に出してもらうもの

- ・2%キシロカイン
- ・ゲンタマイシン
- ・4%点眼キシロカイン
- ・BSS (コンステからシリンジにとりわける)
- ・PA ヨード

PHACO+IOL

手術室展開	手術操作	器械	間接介助	ワンポイント
1.セッティング	○入室後に、4%キシロカイン点眼 ○5分後、再度点眼	① コンステ用台カバー ② phaco カセット ③ U/S ハンドピース ④ I/A ハンドピース ⑤ ジアテルミー ⑥ 布鉗子1本 ⑦ 5ml シリンジ ⑧ バイポーラ ⑨ コネクティングチューブ ⑩ 眼科用ドレープ ⑪ ガウン・手袋 ⑫ 顕微鏡キャップ	① コンステレーション用台カバーをセッティングする。 ② Phaco カセット BSS 灌流用回路 (コネクター赤) を臨床工学士へ渡す。 ③ U/S ハンドピース、灌流チューブ (コネクター緑) ジアテルミーコードを臨床工学士に渡す。 U/S ハンドピースと灌流チューブをつないだらプライミングを行う。 ④ 白い方の還流コネクターを外し、BSS を 5ml のシリンジにうけ器械台に持ってかえる。 ⑤ 滅菌ガウン ⑥ 滅菌手袋 ⑦ 顕微鏡キャップのセッティング 顕微鏡大キャップ 2 個、小キャップ 8 個を装着する。	US/IA ハンドピースのレンチは確実にしめてください
2.皮膚消毒	① 0.02%グルコジン綿球で両目にかかるように消毒する。 ② イソジン綿球で患側の目の皮膚消毒をする。	① 0.02%グルコジン水+大綿球 2 個 ② 消毒ペアン ③ イソジン+小綿球 2 個 ④ PA ヨードなどの洗眼消毒薬を使用する。 ⑤ ガーゼ 2 枚 ⑥ 点眼瓶 (点眼麻酔) ⑦ コネクティングチューブ+布鉗子		
3.結膜囊の消毒と点眼麻酔	③ 洗眼消毒薬で2回結膜囊の消毒を行う。 ④ 点眼麻酔	⑤ 眼科用シート		
4.ドレーピング	① ドレープの開窓部に手術眼が	眼科用ドレープ 布鉗子 コネクティングチューブ		

<p>5.メス刃や ccc の準備</p> <p>手術開始</p> <p>6.結膜切開</p> <p>7.tenon 麻酔</p> <p>8.止血</p> <p>9.マーキング</p> <p>10.強角膜切開</p> <p>11.サイト`ポート作成</p> <p>12.粘弾性物質の注入</p> <p>13.CCC</p>	<p>あたるようにドレーピングし、開窓部にテガダームを貼る。</p> <p>② 眼科直剪刀でテガダームを切開し、開瞼器をかける。</p> <p>〔替刃メスの作成〕 Dr が替刃メスの柄に替刃メスを挟み、作成する。 BSS 用のヒーロン針を先端をまげて、ハイドロダイセクションの準備をする。</p> <p>結膜を切開し、ジアテルミーで強膜をなぞりながら止血する。</p> <p>19GV ランスでサイト`ポートを作成する。</p> <p>連続円形切嚢</p>	<p>テガダーム 眼科直剪刀</p> <p>バンガードー開瞼器（オープン式） 替え刃メスの柄 替え刃メス ガーゼ ヒーロン針</p> <p>チタン有鉤セツ スプリング剪刀</p> <p>ジアテルミー MQA</p> <p>カリパー</p> <p>替刃メス クレセントナイフ スリットナイフ</p> <p>V ランス 19G</p> <p>ヒアルロン酸 Na ヒーロン針 2.4mm スリットナイフ BSS</p> <p>池田氏カプセル鑷子 稲村氏カプセル鑷子 25G 27G 注射針</p>	<p>作成された替刃メスは OP 終了するまで外さない。 残った替刃メスを回収する。術中替刃を作り変えることがあるため、すぐに渡せるように保管しておく。</p> <p>針とシリンジがきちんとロックされているか再度確認する。</p> <p>テノン麻酔・ジアテルミーは行わない場合もある。</p> <p>CCC は術者の好みにより、使用する器械が異なるが、一般的には池田氏カプセル鑷子を使用することが多い。</p>	
---	--	---	---	--

14.ハイドロデカケ ション	BSS を注入し水晶体の核と皮質をカプセル内で分離させる。2.4 スリットナイフで U/S ハンドピースが入るくらいの広さで前嚢まで切開する。	BSS シリンジ ヒーロン針		
15.超音波乳化 吸引 核分割	先に U/S ハンドピースで核を吸引し I/A に付け替え皮質を吸引する。	U/S ハンドピース 新川橋 I/A ハンドピース バイマニュアル	新川橋を Dr の左側より手渡しする。 皮質が手前などに残存し、とりにくい場合はバイマニュアルを用いて皮質除去を行う。	
16.レンズ挿入	ヒアルロン酸 Na 注入し、レンズ挿入する。	指定のレンズ HOYA Alcon など		
17.レンズの位置調整		レンズフック ヒアルロン酸シリンジ	レンズフックやヒアルロン酸 Na+ヒーロン針でレンズを回す。	
18.強膜縫合	強膜を縫合する。 乱視の有無を確認する。			
19.ヒアルロン酸除去	BSS 置換を行う。	眼内レンズ レンズフック	手術の状況に応じて、レンズの選択を行う。	
20.前房圧の調節	指で眼圧の調整をする	BSS+ヒーロン針 I/A ハンドピース		
21.結膜縫合	9-0 バージンシルクで縫合する。 (バイポーラで結膜を凝固閉鎖することもある。)	9-0 バージン マイクロ持針器	平均 3 針ほど縫合する。 針がきちんと戻ってきているか注意して見る。	

<p>22.ゲンタマイシン局注</p> <p>手術終了</p>	<p>ドレープをはずし眼の周囲をガーゼで拭き、タリビット眼軟膏を眼球に塗布する。リント布をあてる。</p>	<p>ゲンタマイシン 1ml シリンジ+27G 針</p> <p>濡れガーゼ タリビット眼軟膏+硝子棒 リント布</p>	<p>外回りNsより、硝子棒にタリビット軟膏をうけとる。</p> <p>使用した器械や針などのカウント物のカウント。</p> <p>※未使用の替刃メスは全症例終了後、洗浄室に持って行く。</p>	
---------------------------------	---	--	---	--